



孫娘には、
ウエディング
おはぎを。

お食事処菜の花 なの花工房
田中英美子
美恵子

素材のちからを生かした、上質の家庭料理。



食育ということばがある。食べることで人生を学ばせる、というような説教がましいことではない。もつと素直な、とてもあたりまえのこと、と田中英美子さん(右)は思っている。「おいしいものを食べているときの、ひとの表情はものすごく豊かです」。あれこそすべてだ。戦後の物のない時代に幼いころを過ごしたから、その貴さが切実にわかる。子どもには本当においしいものを食べさせることがなよりの情操教育なのだ。ただし、おいしいものとは凝りに凝って、奇をてらったものではない。素材のちからを尊敬し、それを生かす料理だ。そのためには自分の畑でいいいに育てる。「母は、もう少し身体をいたわればいいの」と思うほどじつとしていません。好きなことだから、仕方ないとは言ってもね」。娘の美恵子さん(左)は心配する。高校生のお孫娘は、つねづねこう言うのだ。「わたしの結婚式にはおばあちゃんに(ウエディングおはぎ)を作ってもらいたい」。なるほど、すばらしいアイデアだ。ナイフを入れると、若い二人をねつとりと優しく祝福することだろう。地震があったあと、「いのちをつなぐのは食べ物」ということをあらためて母娘は思った。この仕事を母娘でやっていけることの喜びを感じつつづけている。おおきな感謝とともに。

人の力を
信じる。

阿蘇の誇りと実りのブランド

灸
zen
A s o C i t y